

情報公開用文書

西暦 2018 年 10 月 1 日作成

研究課題名	ポジティブ・デビアンズ・アプローチを用いた手指衛生改善プログラムの実施可能性の検討
研究の対象	横浜医療センター 研究対象部署に在籍している職員（看護師、看護助手、医師）
研究目的 ・方法	<p>目的：ポジティブ・デビアンズ・アプローチは、その集団の中に既に存在している「うまくいっていること」に着目し、それを共有していくことで問題解決をはかるボトムアップ型のアプローチです。このアプローチでは、同じようなリスクを持つ集団の中で、他とは違う希少な行動ややり方で問題解決を行う特定の個人、または集団をポジティブ・デビアントと呼び、ポジティブ・デビアントが行っている実践を、集団全体に対して普及し、その結果を評価することで、行動変容が必要な課題や社会的な課題の解決をはかります。この研究の目的は、ポジティブ・デビアンズ・アプローチを用いた手指衛生改善プログラムを開発し、実施可能性と効果について検討することで、今後の普及に向けた基礎資料となることが期待されます。</p> <p>方法：ポジティブ・デビアンズ・アプローチを用いた手指衛生改善プログラムを開発し、対照群を設けない前後比較試験のデザインを用いて、病院職員の手指衛生遵守率や、手指消毒使用量および MRSA 罹患密度率などの変化を評価指標として同プログラムの効果を検討します。また、ポジティブ・デビアントと認識された人の人数や、このプログラムの普及のために実施されたカンファレンスの開催数および参加人数、議事録の内容分析、ポジティブ・デビアントと認識された人ヘインタビューなどを実施し、それらから同プログラムの実施可能性について検討します。</p>
研究期間	西暦 2018 年 4 月 1 日 ~ 西暦 2019 年 10 月 31 日
研究に用いる 試料・情報 の種類	<p>研究開始時点における研究対象部署の、過去の職員の手指衛生遵守状況、手指消毒剤使用量に関する情報と、入院患者から検出された MRSA 罹患密度率に関する情報</p> <p>・2018 年 4 月～2019 年 3 月の研究対象部署の過去の職員の手指衛生遵守率および手指消毒剤使用量、同期間の患者から検出された MRSA 罹患密度率を算出します。</p>
<p>本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。</p> <p>ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので、下記連絡先までお申出ください。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも職員の方に不利益が生じることはございません。</p>	
<p>問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：</p> <p>横浜市立大学大学院医学研究科 看護学専攻 感染看護学分野 学生 深瀬史江</p> <p>e メール t176619c@yokohama-cu.ac.jp</p>	